

# シンポジウム 未来へのキーワード EPR

## 石油ピークと少子高齢化への社会哲学の提案

主催 ;NPO 法人 もったいない学会 EPR 部会

<http://www.mottainaisociety.org/index.html>

協賛 ;東京大学工学系研究科、鳥取大学工学部、日本工学会、  
日本工学アカデミー科学技術戦略フォーラム、  
省エネルギーセンター(手続き中)

日時 ;3月21日(金) 13:30-17:00(13:00 開場、受付開始)

場所; 東大 山上会館

([http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_00\\_02\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_00_02_j.html))

参加費; 資料代 1000 円、ポスター展示:10000 円、懇親会(17:30 より)会費 3000 円(学  
会加入希望者は資料代にて、もったいない学会一般会員に加入が出来ます。)

事前申し込み:、もったいない学会まで3月17日までにE-Mailにて3.21 シンポ参加とお  
申し込み下さい [guest@mottainaisociety.org](mailto:guest@mottainaisociety.org)、懇親会参加の有無もお知らせ下さい。

**開催趣旨** 石油ピーク、少子高齢化は日本の産業、農業、ビジネスに大きな負のインパクトを与えます。石油などの資源、エネルギーをどの程度有効に使うかを評価する尺度がエネルギー収支比(EPR)です。EPRで発電、輸送、農業、文明に関わる改善策を評価し、積極的にすすめるべきです。

団塊世代のリタイアの増加により、日本の活力が減少していきます。日本の社会システムが根底から変わる必要があります。EPR 的発想で、社会システム全体をとらえて、少ない資源、エネルギーで日本の活力を上げるには、どのような方策の EPR が高いかを評価することも必要です。

### 講演

・石油ピークは、日本社会に何をもたらすか—そのインパクトと文明論対応:

石井吉徳(東京大学名誉教授、もったいない学会会長)

・EPRからの石油ピーク・少子高齢化へのアプローチ:天野 治(電中研、EPR 部会長)

### パネル討論

(EPR 視点からの分野毎の見直し、大学の取り組み、産業界の取り組み、少子高齢化への対応など)

### ポスター展示

(次世代技術、本質と課題)

太陽光発電-昭和シェル、MSK、電気自動車への取り組み-東電、風力発電-鳥取大学、完熟肥料・飼料-シーンズ、地熱—地熱技術開発、自転車—活用推進研究会